

模擬ワークショップ

「ワークショップを体験しよう」と、テーブルワークを実践しました。ワーク1では智頭町の悩みや課題(青色の付箋)を書き出しました。ワーク2では、あげられた意見に対して、自己紹介で学んだようにポジティブ変換(赤色の付箋)をしました。意見の集約方法や、引き出し方のコツ、時間配分などを学びました。



ファシリテーションレクチャー

- 模造紙を綺麗にまとめるのではなく、参加者同士が意見交換しやすい環境をつくること
- 発言していない人、発言しにくそうな人に対して発言しやすいように促すこと
- 進行や記録など全てをする必要はなく、時には同じグループの人に任せ、主体形成を図ることも大切

職員研修の感想

日常業務の中で使えそうなもの、実践できそうなものはありましたか？

聞き方について。相手の話しやすさの大切さを改めて、考えました／ネガティブな発想は常にポジティブに変換する癖をつけたいと思いました／4つの聞く方法を実践しようと思った／家内会議で話がまとまりにくい時、今日のような作業は有効であると感じた

ヒアリングや総合計画策定を進めていくにあたり不安な点はありますか？

どうせするなら皆が楽しめるやり方であってほしいです／質問の趣旨になった回答をひきだせるかどうか不安／ワークショップ、計画策定に参加する対象住民にかたよりのないようにしたいと思いました／住民さんの心を開けるかが心配／全てが不安ですが頑張ります

studio-L

studio-L (スタジオエル) は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住むひとたちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合復興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。http://www.studio-l.org

《問合せ先》智頭町企画課

【住所】〒689-1402 智頭町智頭2072-1 [電話] 0858-75-4112

山・ひと・暮らしラボ

智頭町総合計画策定プロジェクト

日程 2016.5.9.Mon
時間 13:30-16:00
会場 智頭町観光協会

2016年5月9日、総合計画策定委員のみなさんを対象に職員研修をおこないました。第7次総合計画策定にあたり、住民のみなさんと一緒にまちの将来について考えるワークショップのファシリテーターを担っていただくこととなります。今回の職員研修では、総合計画策定を通して取り組みたいことや、智頭町ならではの計画づくりの方向性、ファシリテーターに求められるスキルを学びました。



プログラム

- 1 はじめに
- 2 **レクチャー** 総合計画策定について
- 3 **フリートタイム** 自己紹介
- 4 **レクチャー** ワークショップとファシリテーション
- 5 **ワーク** 模擬ワークショップ
- 6 **ファシリテーションレクチャー**
- 7 おわりに



はじめに

第7次総合計画策定にあたり、現在、職員のみなさんには、住民ヒアリングを順次進めてもらっています。今後はワークショップという手法を用いて、住民を巻き込んだ意見交換の場が増えてくると思います。本日の研修では、ワークショップがどういったものかを体感してもらうとともに、意見を聞き出すファシリテーターのスキルを身につけていただきたいと思います。

総合計画策定について

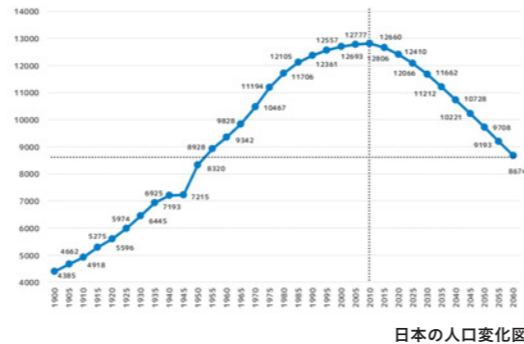
総合計画とは

地方自治体が様々な活動を行う基盤となるものです。長期的なまちづくりの方針や将来像、目的・手段が掲げられており、基本構想と基本計画から成ります。智頭町では、今後10年間の計画にあたる第7次総合計画を策定していきます。



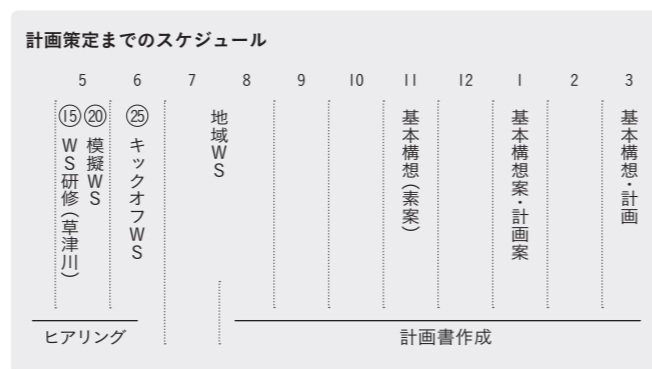
人口減少時代を生きているわたしたち

今日、社会問題といわれている「人口減少」。しかしながら、それ自体は問題ではありません。長期的な視野で見ると、高度経済成長期に急速に増えた人口が減少し、もとの状態に戻ってきているといえます。この人口が戻っていく過程の中でどう対応するかが課題なのです。現状を受け入れ、無理なく豊かに暮らす方法を考えることが大切です。「人口減少社会=新しい社会」。これまで誰も経験したことがなかった時代を生きるわたしたちだからこそ、これまでのやり方を考えなおし、**発想の転換**をすることが求められます。



これからの智頭町総合計画の進めかた

智頭町では、「1/0村おこし運動」や「百人委員会」など約20年に渡る、住民主体と取組みが既にあります。まずは、**各活動をしっかりと整理し振り返ること**からはじめます。そのうえで**どんな暮らしがしたいか・どんなまちになってほしいか**将来の目標を考え、**活動を実行する仕組みと役割**を検討していきます。総合計画を策定する中で、智頭町がこれまで培ってきた地域資源や様々な活動を、住民ひとりひとりが把握し、共通のビジョンを描いていくことが大切です。



意外な一面を知る自己紹介



性格が書かれたカードの中から、自分にあてはまるものを3枚選び自己紹介をしました。改めて、自分の性格を分析する機会になったり、普段仕事で接する人の意外な一面を知ることができたのは、一通り自己紹介が終わったあとに、カードを裏返しました。最初に選んだカード(表面)には全てネガティブな言葉が書かれていましたが、裏面にはポジティブな言葉が書かれていました。私たちは、ネガティブなことは考えやすいという思考があります。しかし、発想の転換をすることで、どんなことでもポジティブに捉えられることができます。日頃から、ポジティブ思考でいきたいですね。

ワークショップとファシリテーション

ワークショップとは

「共通で何かをつくる場所」という意味があります。進行役が一方的に進めるのではなく、参加者と双方がやりとりをし議論を形成していきます。

ファシリテーションとは

参加者全員が対等な立場で意見を発言できるように、中立な立場であるファシリテーターが議事を進行します。全体の進行役として、各テーブルに配置します。

ワークショップの基本ルール

- 1 人の話しは最後まで聞く
- 2 全員が意見をだす
- 3 意見の批判はしない
- 4 面白い意見に便乗する
- 5 できない理由を探すよりできる条件を見つける

Yes,andで話す

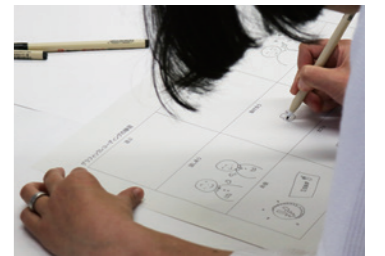
話している途中で意見を批判されるとそれ以上話したくなくなります。No(嫌だ)ではなく、Yes(いいね)と受け入れ、And(さらにこうしよう)と話すことで意見が発展します。

ファシリテーターに求められるスキル

- 1 聞く力や意見を引き出すスキル
- 2 話しやすい場をつくるスキル
- 3 議論の記録を残すスキル

ファシリテーショングラフィック

テーブルで議論したことをしっかりと記録するのもファシリテーターの役割です。イラストなどを有効に使って楽しく議論しましょう。



4つの聞くと2つの質問のかたち

ファシリテーターには、テーブルにいる人たちの意見を上手に引き出すスキルが必要です。単に「聞く」だけではなく、相手の意図に沿った聞き方や質問の仕方に気をくばることで、話しやすい環境をつくることができます。

4つの聞く

- 聞く** (ふむふむ)
 - 集中して聞く
 - 質問せずに聞く
 - 体全体で聞く
- 共感して聞く** (なるほど!)
 - 感情を言葉で確認する
 - 相手の感情に共感する

理解して聞く

相手のいったことを3つ程度のポイントにまとめて言い換える

整理して聞く

相手の考えが整理されるような戦略的な質問をする

2つの質問のかたち

- オープンクエスチョン** (はい・いいえで答えられない)
 - 相手の想いや考えを引き出した時、会話を発展させたいときに使う質問
- クローズドクエスチョン** (はい・いいえで答えられる)
 - 初めて話す人や、話すのが苦手な人との最初の会話に使う質問

オープンクエスチョンの質問の仕方

○○という→どんな感じ→もう少し詳しく教えてください→例えば→具体的には→どんなイメージ→エピソードを教えてください